

景観シミュレーション自己評価書

シミュレーションの距離帯		評価基準（考え方）	評価対象	基準のチェック	評価基準に対するコメント
遠景	<p>●背景との関係が読み取れる距離 ↓ 位置・規模を評価</p> <p>（目安 1)1,000m程度 2)最大寸法 20 倍 例) 高さ 50mの場合 距離 1,000m程度</p>	<p>●大景観と調和しているか（地域の景観の特徴との関係）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観形成基準や広域景観形成基準がある場合、景観形成の目標に適合しているか。 ・地域の景観の優れた特徴を乱していないか。 ・親しまれている眺望を妨げていないか。 	① 位置	○	遠景からかすかに見える位置にあるが、地域の景観を乱さない高さとしている。
			②規模	○	山並みの眺望を妨げない景観となるよう配慮している。
			③スカイライン	○	周囲にある山々のスカイラインには影響しません。
中景	<p>●建物の周辺の状況がわかる距離 ↓ 主要部位を評価</p> <p>（目安 100～500m程度）</p>	<p>●中景観と調和しているか（周辺景観とのバランス）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺の優れた景観特性を乱していないか。 ・過剰に目立っていたり、雑然としていたり、周辺に景観阻害感を生じていないか。 	① 基調色	○	建物外壁色はグレーを基調色とし、1階はタイルを使用し重厚感をもたせ、2階から上部は吹付タイルとし低彩度の色彩としました。
			② おおまかな形状	○	長方形を主としたシンプルな外観とし、過剰に目立たない形状としています。
			③主要な付属物 （屋上設備 屋上階段 ベランダ等）	○	屋上看板は建物本体と一体に見えるように考慮したデザインとしている。
			④特殊な材料 （金属やミラなど）	○	特になし。
近景	<p>●隣接する建物との関係や通りの雰囲気わかる距離 ↓ ディテールを評価</p> <p>（目安 50m程度）</p>	<p>●小景観と調和しているか（通りの雰囲気と建物のデザインとの関係）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通りの雰囲気を悪い方向に乱していないか。 ・商店街や住宅地といった通りの性格や将来計画に照らし合わせて適当なデザインか。 ・建物の立つ場所の特性（交差点に面するなど）に配慮しているか。 	①壁面意匠 （ファサード意匠 側面の仕上げ 壁面設備）	○	周辺のまち並みの景観との調和を乱さないシンプルな建物デザインとしている。
			③ 看板類	○	景観に十分配慮した看板を設けている。
			④ アクセントカラー	○	特になし。
			⑤ 低層部の雰囲気	○	2階上部より低彩度とし、落ち着いた雰囲気とする。
			⑤敷地利用 （緑化など）	○	周辺環境に合わせた樹木を選定する。
地点	<p>●周辺の公共空間（前面道路の歩道など）との関係がわかる距離 ↓ 道路際の造作を評価</p> <p>（目安 10m前後）</p>	<p>●前面の公共空間と調和しているか（道路際の雰囲気）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路敷が雑然としていないか。 ・地区固有の行事などに支障はないか。 ・前後の歩道の雰囲気を乱していないか。 ・その他、圧迫感や歩きにくさを感じさせるようなところがないか。 	①低層部のディテール・意匠・材料・構造	○	過度な装飾を行わないことで周辺環境との調和に配慮している。
			②敷地のデザイン （敷地の舗装 緑化状況 駐車場の見えなど）	○	前後の歩道の雰囲気に合わせ、工作物等で歩行者が圧迫感や歩きにくさを感じさせないように配慮している。